

【京都府】 校務DX計画

1. 京都府における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、本府の課題と考えられる次の事項について各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要がある。

（１）GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

本府では、京都府下の全市町（組合）教育委員会の教員及び生徒に対して、クラウドサービス用アカウントを配付し、汎用クラウドツールの活用を促進しているところである。

このことから、職員会議等の資料や教職員が作成した教材等のクラウド上で共有、教職員間の情報共有の連絡にクラウドサービスを活用するなど、校内におけるクラウド活用は多くの学校で行われている。

加えて、例外的な場合を除き、学校から保護者へ発信するお便りや配布物はクラウドサービスを用いて配信している。そのほか、保護者への調査・アンケート等もクラウドサービスを活用し実施・集計しており、保護者を対象としたクラウドツールの活用も一定進みつつある。

一方、児童生徒への各種連絡や調査・アンケート等のクラウド活用は、個々の特性に応じて、一律の対応を行うことがなじまないことなどが原因で活用状況に課題がある。今後は、校務の効率化を推進する上で今後活用方法について、研究に努める必要がある。

（２）今後の校務支援システムの在り方検討

本府における校務システムについては、オンプレミス型での運用となっており、学習系データと校務系データの連携ができない課題がある。

この課題を解決するため、校務系と学習系ネットワークを統合したクラウド環境での校務運用を目指し、教職員が働きやすく、児童生徒が学びやすい環境の整備を検討していく。

2. 校務D Xに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務D Xに向けた取り組みを以下のとおり進める。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の校務支援システムの活用やコミュニケーションツールを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していく。

(2) 校務系・学習系ネットワークの統合等

校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進める。また、校務支援システムの在り方検討と共に、ネットワーク統合後の組織体制、校務の効率化、ペーパーレス化、F A X・押印の廃止の推進を一層進めていく。